

だい ぶ かだい
第5部 課題

この用紙は、大会当日使用しますので、必ずご持参ください。

だい かい
第16回

まいにち にゅうりょく
毎日パソコン入力コンクール

しゅう き たいかい
秋季大会

か だい
【課題】

だい ぶ わぶん しょうがくせいこうがくねん
第5部 和文A 小学生高学年

かんりょうく
ことわざ・慣用句②

せいげんじかん ぶん
制限時間5分

とうじつ ちゅういじこう
【コンクール当日の注意事項】

1. この用紙を拡大・修飾などして、当日使用しても問題ありません。
2. 団体責任者の指示にしたがい、18桁の参加番号を半角数字で入力してください。
3. 課題の入力はすべて全角文字でおこなってください。スペースと改行も字数に数えます。ただし最終行はのぞきます。

※この課題は、小学館 例解学習ことわざ辞典 第二版より引用しました。
(文字数2,080字程度)

かだいぶんしょう きんそくもじ
〈課題文章の禁則文字について〉

毎日パソコン入力コンクールでは、引用した文章を原文のままソフトに取り込んでいるため、行頭、行末に禁則文字が来る場合があります。課題文章のPDFファイルどおりに入力すると正解になります。

しゅさい
主催

まいにちしんぶんしゃ
毎日新聞社

いっばんしゃだんほうじん にほん のうりょくけんていいんかい
一般社団法人 日本パソコン能力検定委員会

こうえん
後援

そうむしょう
総務省

もんぶかがくしょう
文部科学省

こうせいろうどうしょう
厚生労働省

けいざいさんぎょうしょう
経済産業省ほか

ぎょう じづめ ぶんしょう にゅうりょく
1行32字詰で、つぎの文章を入力してください。

※  の箇所かしよ かいぎょうで改行 (Enter) してください。

 て手を貸す 
しごと仕事を て手伝う。 て手助けをする。 
いしだん石段をのぼるおばあさんに て手を貸す。 


じが自画 じさん自賛 
じぶん自分のことを、 じぶん自分でほめること。 
「われながらすばらしい」と じが自画 じさん自賛する。 


はたけちが畑違い 
じぶん自分が せんもん専門として しごといる がくもん仕事や ちが学問と ちが違うこと。 
ほんぎょう本業は いしゃ医者だが、 はたけちが畑違いの しょうせつ小説家としての ゆうめいほうが有名だ。 


はな話し上手は き聞き上手 
はなし話の じょうず上手な ひと人は、 あいて相手の はなし話をよく き聞く ひと人でもある。 
はな話し上手は き聞き上手、 じぶん自分のことばかり はな話す ひと人は はな話し上手とは い言えないよ。 


みみ耳を疑う 
しん信じられないような はなし話を き聞かされて、 き聞きがち おもいではないかと思う。 
さくひん作品が いっとう一等に にゅうせん入選と き聞いて みみ耳を疑う。 


あい相づちを打つ 
はなし話を き聞きながら、「うんうん」「なるほど」などと、 どうい同意したり、 ううなずいたりして あいて相手の はなし話に ちようし調子を あ合わせる。 
ともだち友達の はなし話に「ほんとだね」と あい相づちを打つ。 


したつづみ舌鼓を打つ 
したおいしくて な舌を な鳴らしながら た食べる。 
めいぶつ名物の べんとうウナギ したつづみ弁当に う舌鼓を打つ。 


わきめ脇目も振らず 
ひと一つのことを、 いっしん一心にするようす。 ひと一つのこと しゅうちゅうに集中するようす。 
わきめ脇目も振らず はしゴールめざして はしひたすら走る。 


なみだをのむ 

くやしい^{きもち}気持ちを、じっとがまんする。残念^{ざんねん}な思いをこらえる。☞
けがのため試合^{しあい}に出られずなみだをのむ。☞



読み^{よみ}が深い☞

先^{さき}の先^{さき}まで深く見通^{みとお}している。多方面^{たほうめん}から深く考^{かんが}えている。☞
雨天^{うてん}の準備^{じゅんび}までしてくるとは、さすが読み^{よみ}が深い。☞



遠^{とお}くの親類^{しんるい}より近^{ちか}くの他人^{たにん}☞

いざという時^{とき}には、遠方^{えんぽう}の親類^{しんるい}より、近所^{きんじょ}の他人^{たにん}のほうがたよりになる。☞



困^{こま}っていたら、となりの人^{ひと}が助^{たす}けてくれて、こんな時^{とき}は遠^{とお}くの親類^{しんるい}より近^{ちか}くの他人^{たにん}ね。☞



喜^き色^{しよくまんめん}満面☞

喜^{よろこ}びが顔^{かお}いっぱい^{あらわ}に表^{あらわ}れているようす。☞
喜^き色^{しよくまんめん}満面^{ひょうしょうだい}で表彰台^たに立^たつ。☞



ふるい^{ふるい}にかける☞

ある基^き準^{じゆん}で、物^{もの}や人^{ひと}を選^{えら}び分^わける。すぐれたもの^{えら}を選^{えら}びとる。☞
た^おくさ^うんの応^{おう}募^ぼ者^{しゃ}の中^{なか}からふるい^{ふるい}にかけて三^{さん}人^{にん}を選^{えら}ぶ。☞



目^めの色^{いろ}を^かえ^かえる☞

興^{こう}奮^{ふん}したり、腹^{はら}を立^たてたり、び^びっくりしたり、何^{なに}かに熱^ね中^{ちゆう}したりして、目^めの表^{ひょう}情^{じゆう}を^かえ^かえる。☞

サ^めッカ^{いろ}ーのこ^かととなると目^めの色^{いろ}を^かえ^かえるね。☞



ひ^{まじ}ざを交^{まじ}える☞

へだ^{どう}てなく同^{どう}席^{せき}する。ひ^うざをふれあ^ううよう^うにして打^うちとけ^{はな}て話^あし合^あう。



○ かん^{もん}き^だい^{じん}よう^{じゅう}問^{みん}題^{じん}について大^{だい}臣^{じん}と住^{じゅう}民^{みん}がひ^{まじ}ざを交^{まじ}えて話^{はな}し合^あう。☞



花^{はな}を^も持^もた^たせ^せる☞

手^て柄^{がら}や勝^{しょう}利^りを^あい^あて^あたりして相^あ手^てを立^たてる。☞
先^{せん}輩^{ばい}の顔^{かお}を立^たてて花^{はな}を^も持^もた^たせ^せる。☞



秋あきの日ひはつるべ落おとし

秋あきの日ひは、つるべを落おとすように、あつという間まに暮くれるものだ。

秋あきの日ひはつるべ落おとしだね、外そとはもうまっ暗くらだ。

↓

たなからぼたもち

思おもいがけない幸こううん運うんがころげこむこと。

たなからぼたもちで、友ゆうじん人じんから「いらないから」とパソコンをもらう

。

↓

目めは口くちほどに物ものをいいう

目めは、口くちで話はなすのと同じぐらいに、相あいて手てに気き持もちを伝つたえることができる。

目めは口くちほどに物ものをいいうで、目めを見みただけでがっかりしているのがわかった。

↓

案あんの定じょう

思おもっていた通とおり。考かんがえていた通とおり。

心しんぱい配はいしていたら案あんの定じょう雨あめがふり出だした。

↓

あらしの前まえの静しずけさ

大たいへん変へんなことが起おこる前まえには不ぶ気き味みな静しずけさがあるものだ。

いやに静しずかだな、まさには、あらしの前まえの静しずけさだ。

↓

腹はらを割わる

思おもっていることをかくさず打うち明あける。

腹はらを割わって話はなし合あう。

↓

手てに汗あせをにぎる

見みたり聞きいたりしながら、きんちょうしたり興こうふん奮ふんしたりする。

手てに汗あせをにぎる大だい接せつ戦せん。

↓

前ぜん代だい未み聞もん

今いままで一いち度ども聞きいたことがないこと。非ひ常じょうにめずらしいこと。

前ぜん代だい未み聞もんのちん事じ件けん。

↓

無む理りが通とおれば道どう理り引ひっ込こむ

道理どうりにそむくことが平然へいぜんと行おこなわれるようになると、道理どうりにかなった正ただしいことは行おこなわれなくなる。↵

割り込みわりこみが横行おうこうすると、無理むりが通とおれば道理どうり引ひっ込こむで、だれもきちんならと並ならぼうとしなくなる。↵

↵

おにの目めにもなみだ

情なさけ知らずの冷つめたい人ひとでも、心こころを動うごかされてなみだを流ながすことがある

。↵

厳きびしいコーチもおにの目めにもなみだで、優勝ゆうしょうのしゅんかんなに泣ないていた。↵

↵

七なな転ころび八や起おき

何なん回失かい敗ししてもくじけずに、立たち上あがること。人生じんせいには浮うき沈しずみが多おほ

いことのとえ。↵

何なんのこれしき、人生じんせい七なな転ころび八や起おきさ。↵

↵

目め頭がしらが熱あつくなる

感動かんどうして、目めから涙なみだがで出でそうになる。↵

命いのちがけでヒナを護まもる親おやどり鳥すがたの姿めがしらに目め頭がしらが熱あつくなる。↵

↵

虫むしが知しらせる

何なんかが起よこりそうだという予かん感がする。↵

虫むしが知しらせたのか、早はやく引ひき上あげたので雨あめにあわずにすんだ。↵

↵

三み日っかにあげず

間あいだをおかないで、度たび々たび何なにかをする。↵

その店みせのラらーメめンがすきっかり気きに入いり三み日っかにあげずに食たべいに行く。↵

↵

聞ききしに勝まさる

聞きいていた以上いじょうにすばらしく立り派っぱだ。↵

夕ゆう日ひにかがやく富ふ士じは聞ききしに勝まさる美うつくしさだ。↵

↵

論ろんより証しょう拠こ

あれこれ議ぎ論ろんするよりも、証しょう拠こを示しめすことによよって、ものごとははっ

きりする。↵

スしキーゃしんに行いったことが、うそでないことは、この写しゃ真しんが論ろんより証しょう拠こだ

。 ◀

◀

ひゃくり い もの くじゅう なか
百里ひゃくりを行く者は九十くじゅうを半なかばとす

なにごと お もっと むずか しっぱい おお さいご き
何事なにごとも、終おわりのほうもが最むずかも難しっぱいしく、失おお敗さいごも多きいので、最さいご後きまで気きを
ゆるめてはいけない。 ▶

ひゃくり い もの くじゅう なか すこ おも き
百里ひゃくりを行く者は九十くじゅうを半なかばとすだよ、もう少すこしおもと思きって気きをゆるめる
な。まだ半はんぶん分おもだと思おもえ。 ▶

◀

ぶんめいかいか
文明開化

せいよう ぶん か せっきよくてき い よ なか きゅうそく しん ぽ
西洋せいようの文化ぶんを積せ極き的よくにとり入いれ、世よの中なかが急きゅう速そくに進しん歩ぽすること。 ▶

ぶんめいかいか
文明開化で、ちょんまげはなくなった。 ▶

◀

お
ふに落ちない

なっとく
納得ながいかない。 ▶

お てん しつもん
ふに落ちない点てんがあれば質しつもん問もんしてください。 ▶

◀

ほうほうの体てい

あわてふためいて逃にげる様よう子す。 ▶

かみなり てい いえ に こ
雷かみなりにあい、ほうほうの体ていで家いえに逃にげ込こむ。